

専攻科だより

— 生産システム工学専攻第2期生修了 —
— 平成19年度の専攻科生の活躍 —

専攻科長 葛目幸一
海上輸送システム工学専攻主任 多田光男
生産システム工学専攻主任 藤本隆士

生産システム工学専攻第2期生修了

平成20年3月14日生産システム工学専攻・第2期生の修了式が挙行されました。修了者は8名で、12月に実施された学位審査を受験者した者全員が、審査に見事合格し「学士」の資格を取得しました。修了後の進路は、就職6名、大学院進学1名、その他1名となっています。専攻科生の進路については、多少、教員のサポートはあるものの、学生自らが、志望する企業を選び、企業研究を行い、就職対策を立てるといふ、「自ら考えて行動する姿勢」は、本科生とは大きく異なり、専攻科での2年間で、精神的にも大きく成長したようです。



生産システム工学専攻第2期生たち

生産システム工学専攻2期生の進路状況

岡山大学大学院自然科学研究科・機械システム工学専攻
JFEスチール福山製鉄所(広島)、村田機械(京都)
菱友システム技術(兵庫)、東芝情報システム(神奈川)
新生ハイテック(兵庫)、山陽精機(岡山)、その他

専攻科生のための英語キャンプ

英語によるコミュニケーション能力の向上を目指し、3月10日から13日の4日間、専攻科生を対象に英語キャンプが開催されました。ネイティブ3名を講師に招き、本校留学生4名とガンバット先生の応援で無事終了できました。このキャンプで、学生は1日あたり約5時間英語漬けとなりました。最初は、ネイティブとのコミュニケーションがうまくとれず多くの学生が苦勞していたようですが、留学生のサポートのおかげで、英語に対する恐怖心も徐々に払拭され、随所で笑い声が聞こえてくるキャンプとなりました。また、今回は初の試みとして、最終日に、学生が現在取り組んでいる「特別研究」をテーマに英語でのプレゼンテーションを課しました。専門用語を調べ、自分の言いたい事をネイティブに伝え、英文を作成していく作業を行った後、発表前には、発音訓練をネイティブとほぼマンツーマンで行いました。学生達にとっては、かなり大きな負荷になったようですが、やり終えたことで達成感を味わうことができ、英語を話すことへの恐怖心は少しですが、取り除かれたようです。また、本キャンプをきっかけに「これから英語を頑張ろう」という声も聞かれたことは大きな収穫でした。



英語キャンプのひとつ

平成19年度・専攻科生の活躍

専攻科では、少人数制の特徴を活かし、特別研究を通じたより実践的な「専門技術の習得」と「プレゼンテーション能力の向上」を掲げ教育を行っています。本年度は様々な場面で専攻科生が活躍しました。

①全国高専プログラミングコンテスト2007全国制覇

「文部科学大臣賞」受賞・柴田 充邦(生産システム1年在学)

高専本科生とチームを組み、「ネットワーク監視システム「Join NASS」」の開発に取り組み、見事、高専プロコン・全国制覇に大きな役割を果たしました。

②機械学会中四国支部学生卒業研究発表会・「優秀発表賞」受賞

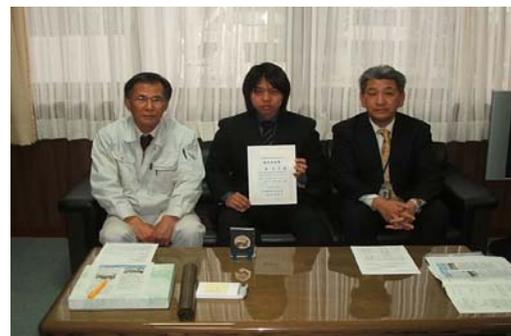
秦 昂平(生産システム1年在学)

3月6日、機械学会中国四国支部主催で開催された学生卒業研究発表会で、特別研究「ピットを有する厚板の曲げ」について発表を行い、優れた口頭発表を行った学生員に対してその努力と栄誉をたたえる「優秀発表賞」を受賞しました。

③電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション(HCG)研究グループ・「ヒューマンコミュニケーション賞」受賞

渡邊文浩(生産システム平成20年3月修了)

特別研究「個人適応型音声インターフェースの開発とECSへの応用」について学会(HCG)で発表。HCG研究会でH19年度に発表された100編あまりの研究論文の中から「ヒューマンコミュニケーションに関する学問技術の発展に貢献する論文」に選定されました。



落合校長への受賞報告の様子